資料－７

第３４回　東京外環トンネル施工等検討委員会

施工計画及び地域の安全・安心を高める取り組みを踏まえた工事の状況等について
＜東名ＪＣＴ　地中拡幅（南行）＞

令和８年３月３０日

国土交通省　関東地方整備局　東京外かく環状国道事務所
東日本高速道路株式会社関東支社　東京外環工事事務所
中日本高速道路株式会社東京支社　　東京工事事務所

目　　　　　　　　　　　次

１．工事の進捗状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １

　　１．１　　東名ＪＣＴ　地中拡幅（南行）工事の概要・・・・・・・・・・・・・・ １

　　１．２　　工事進捗状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １

　　１．３　　標準拡幅部における調査工の結果・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２～４

２．地中拡幅工事（南行）における工事管理体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ５～６

３．地域の安全・安心を高める取り組みの対応状況・・・・・・・・・・・・・・・・・ ７

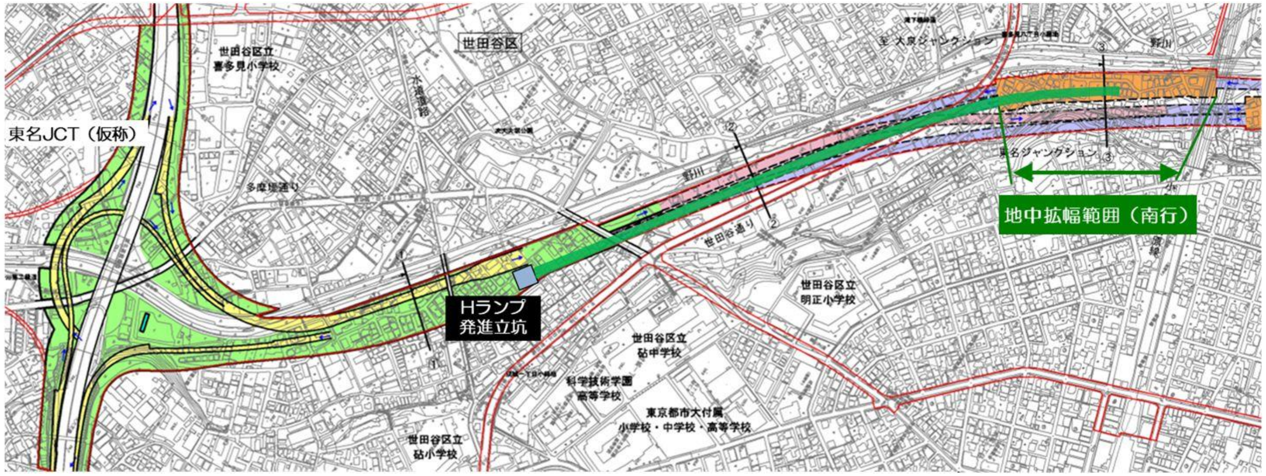
　　３．１　　振動・騒音のモニタリングの強化・・・・・・・・・・・・・・・・・ ８～１２

　　３．２　　地表面変状の確認・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １３～１６

　　３．３　　地域住民の方への情報提供・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １７～１８

1．工事の進捗状況

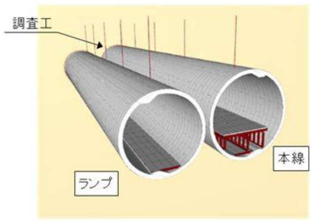
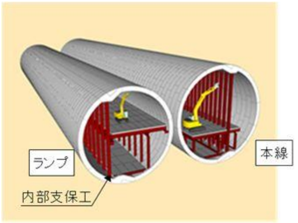
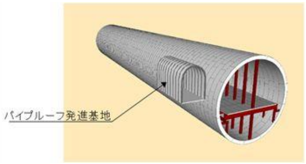
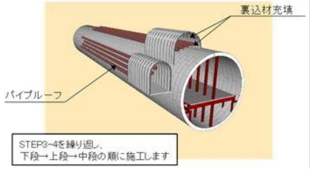
1．1　東名ＪＣＴ　地中拡幅（南行）工事の概要



工事名称	：	東京外かく環状道路　東名ジャンクションランプ シールドトンネル・地中拡幅（南行）工事
発注者	：	東日本高速道路(株)　関東支社
施工者	：	安藤・間・西松・日本国土特定建設工事共同 企業体
工事内容	：	地中拡幅 標準拡幅部　延長　約153m、 部分拡幅部　延長　約68m 合計　約221m
工事箇所	：	東京都世田谷区大蔵～成城

1．2　工事進捗状況（令和８年２月２８日現在）

東名ＪＣＴ　地中拡幅（南行）工事において標準拡幅部では準備工のうち調査工が完了し、内部支保工設置を実施中である。
また、部分拡幅部ではパイプルーフ工の発進基地掘削を実施中である。

標準拡幅部		部分拡幅部	
STEP1：準備工	STEP2：内部支保工組立・坑内仮設備工	STEP3：パイプルーフ発進基地掘削	STEP4：パイプルーフ施工
			
・トンネル周辺の帯水状況や粘性土層に砂質土層が挟まっていないかを調べるために調査工を行います。 ・湧水を確認した場合は必要に応じて止水対策を実施します。	・トンネルを拡幅したときに既存のシールドトンネルが変形しないように、事前に内部支保工を設置します。 ・坑内仮設備工として、標準拡幅部の施工に必要な作業用の足場を設置します。	・部分拡幅部の地山を防護するパイプルーフを施工するため、発進基地を設置します。 ・発進基地は小さく分割し、位置をずらして設置します。小さく分割することで、本線シールドトンネルに作用する応力を小さくすることができます。	・パイプルーフは発進基地毎に分割して作業し、部分拡幅部全長に亘って施工します。 ・施工後はパイプルーフ内及び発進基地を裏込材で充填します。

パイプルーフ発進基地掘削作業構台

切羽状況写真

切羽全体は黒灰色の土丹層で、自立している。亀裂・開口はなく、湧水は滲む程度。

１．３　標準拡幅部における調査工の結果

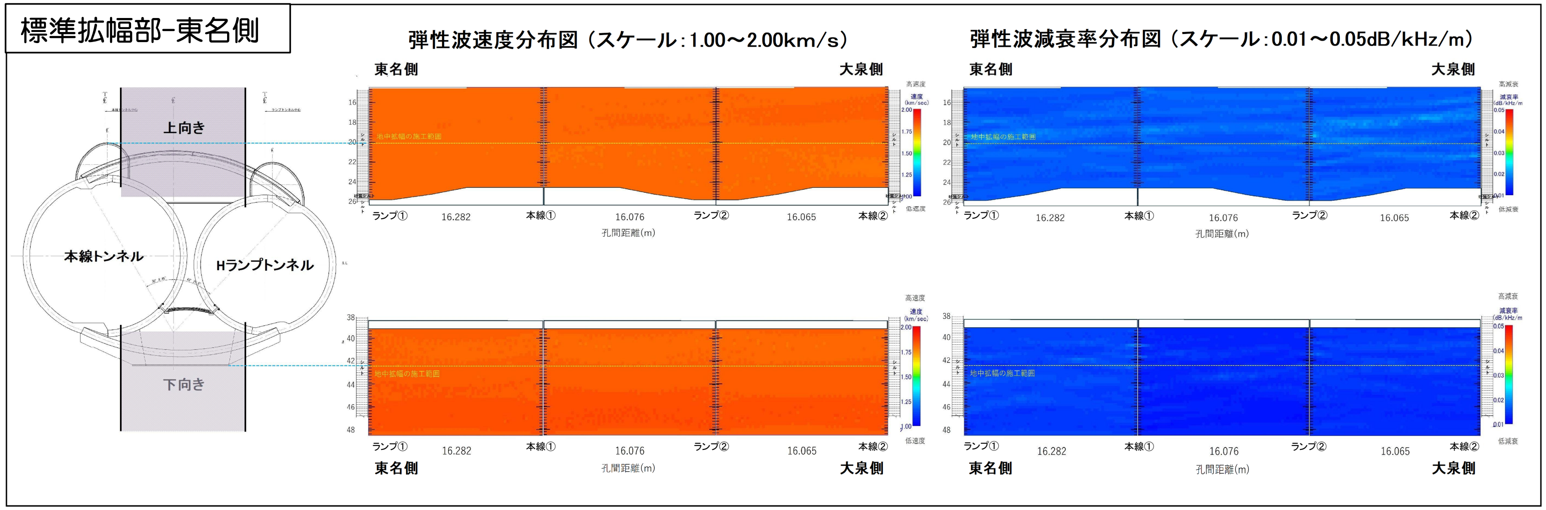
■調査目的

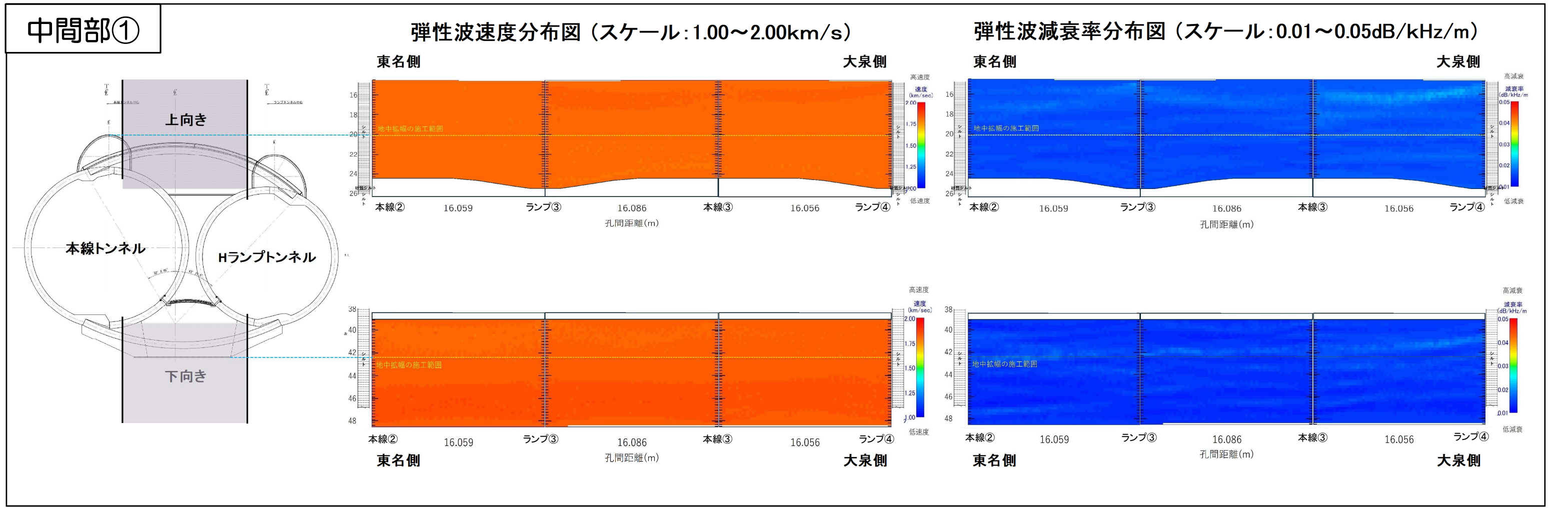
施工箇所近傍の既往のボーリングデータでは地中拡幅工の施工深度の地質は固結シルトであることが確認されている。今回、ボーリング箇所の地質が面的に分布しているか、大きな砂層が介在していないかを確認するために音響トモグラフィ調査を実施した。

また、本線坑内調査孔を利用した湧水量調査を実施した。

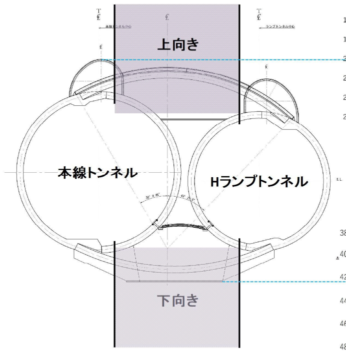
今回調査結果報告範囲は標準拡幅範囲であり、第33回東京外環トンネル施工等検討委員会で報告した部分拡幅部の調査工結果と合わせて東名ＪＣＴ地中拡幅（南行）施工範囲全体に対する評価を行う。

■音響トモグラフィ調査結果

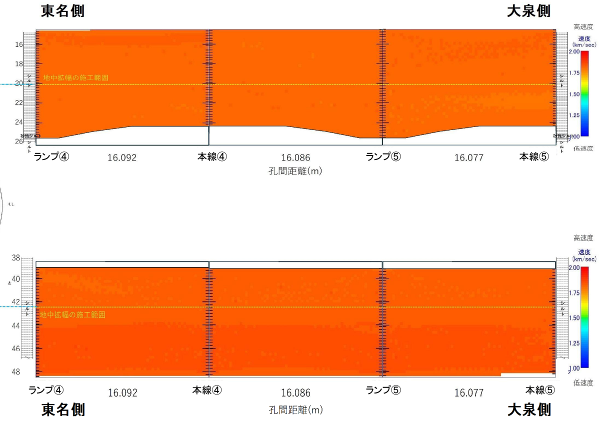




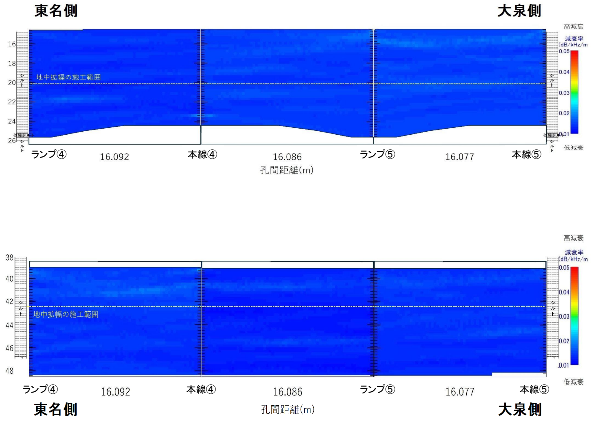
中間部②



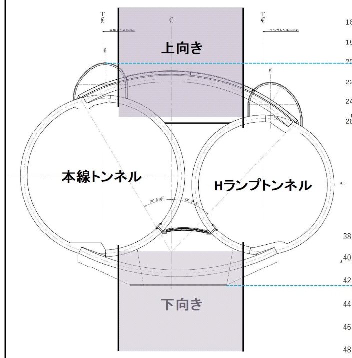
弾性波速度分布図（スケール：1.00～2.00km/s）



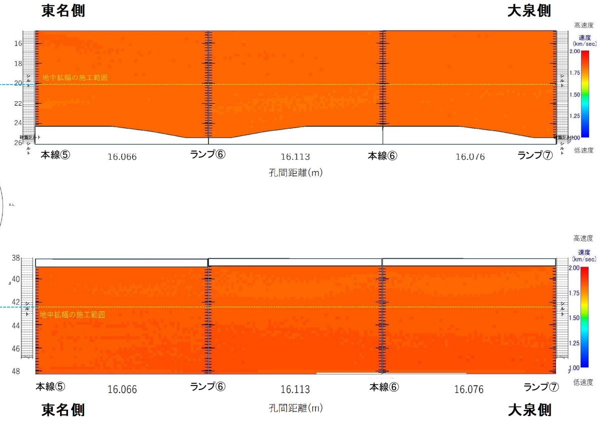
弾性波減衰率分布図（スケール：0.01～0.05dB/kHz/m）



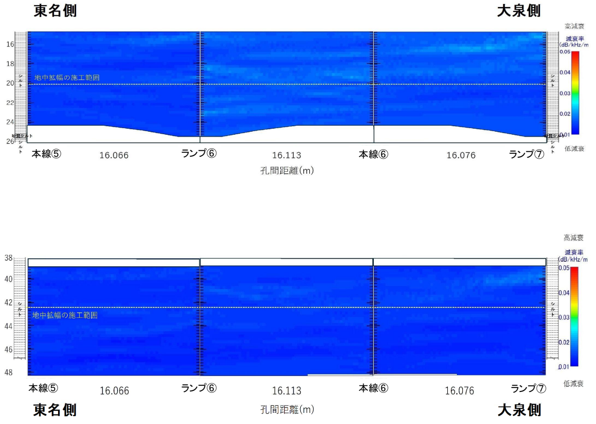
中間部③



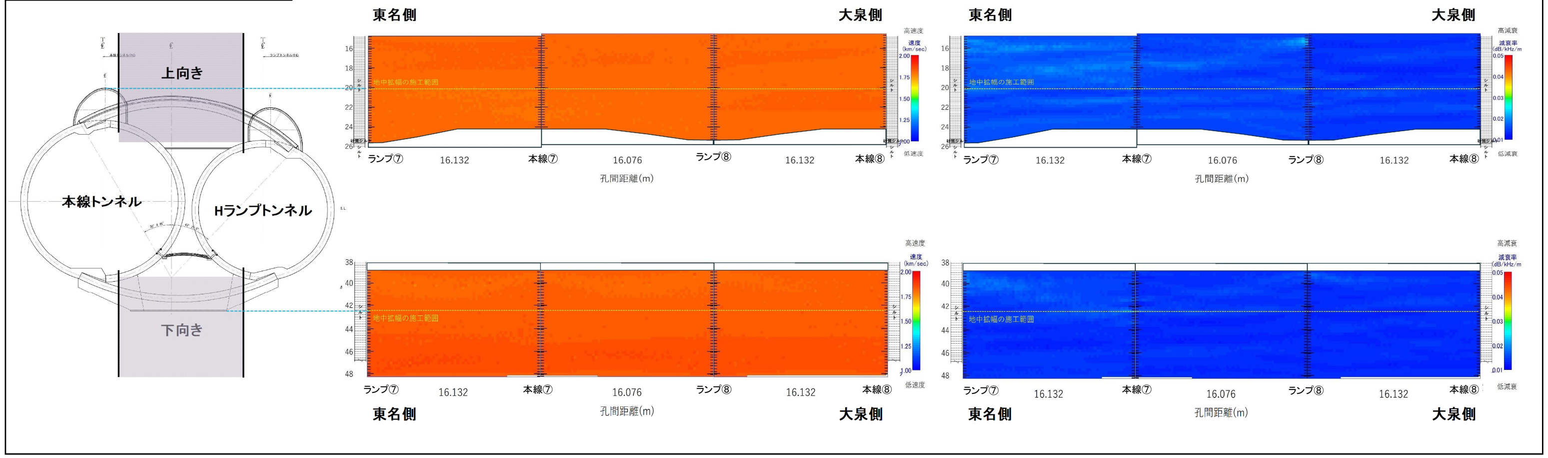
弾性波速度分布図（スケール：1.00～2.00km/s）



弾性波減衰率分布図（スケール：0.01～0.05dB/kHz/m）



標準拡幅部-大泉側



■湧水量調査結果

・本線坑内の調査孔でそれぞれの湧水量の確認を行った。
・調査孔からの異常な湧水は確認されず、透水係数は8.28×10^{-8}m/secと「非常に透水性が低い」とされている範囲であった。

代表的な土の透水係数の概略値

代表的な土	透水係数	透水性
礫	1×10^{-3}	透水性が高い
砂	1×10^{-3}～1×10^{-5}	中位の透水性
砂質土	1×10^{-5}～1×10^{-7}	透水性が低い
粘性土	1×10^{-7}～1×10^{-9}	非常に透水性が低い
粘土	1×10^{-9}以下	不透水性

出典：道路土工-盛土工指針（公益社団法人　日本道路協会）
※単位を統一するため、透水係数（cm/sec）→（m/sec）に修正

■まとめ

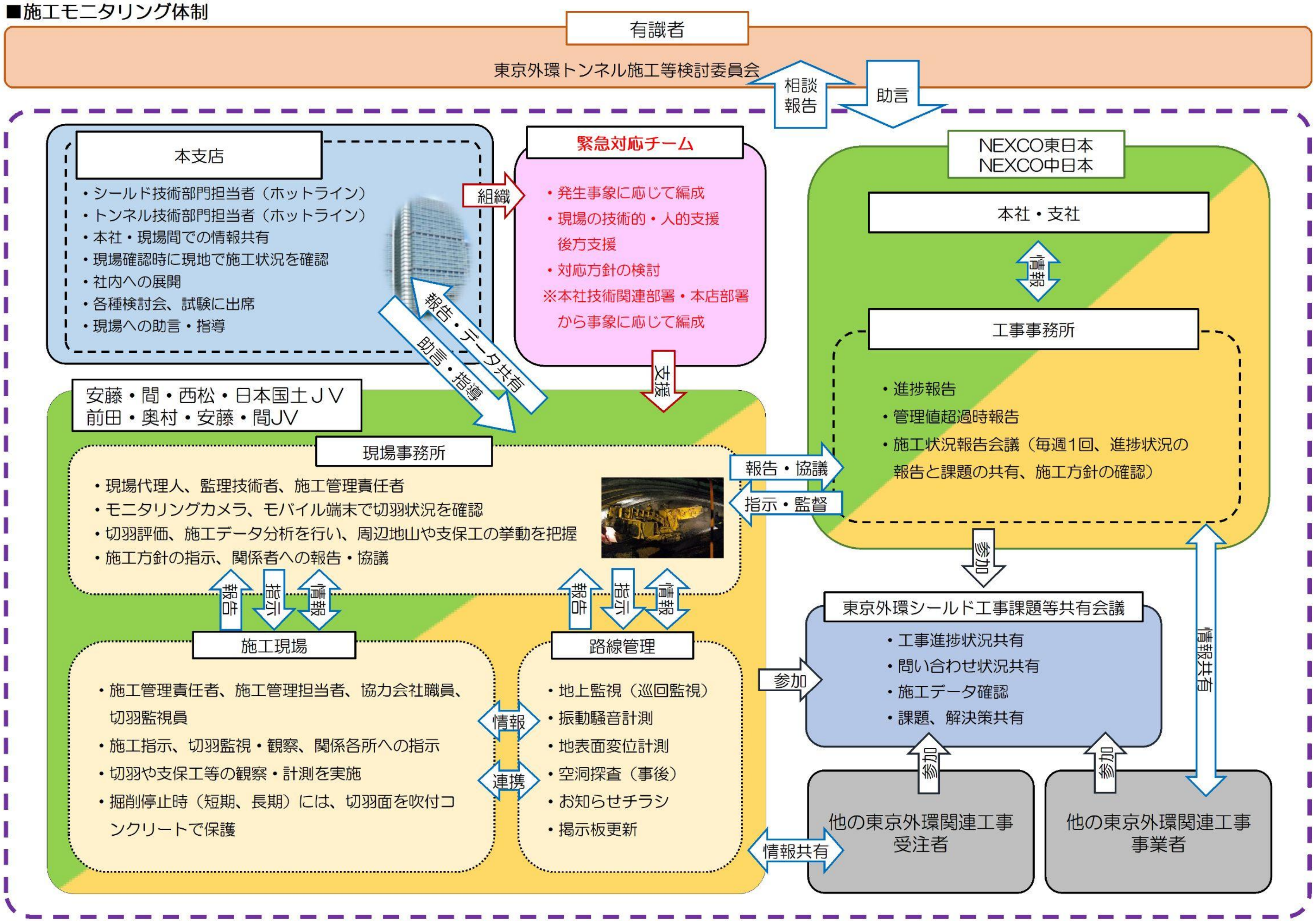
・音響トモグラフィ調査の結果、調査範囲における速度（1.70～1.90km/s）や減衰率（0.014～0.023dB/kHz/m）の分布と既往のボーリングデータから一様に固結シルトが分布していると考えられ、トンネル周辺に大きな介在砂層や緩みは確認されなかった。
・湧水量調査において、地山から異常な湧水は確認されず、透水係数は非常に低いことが確認された。
・今回示した標準拡幅部における調査工の結果及び、第33回東京外環トンネル施工等検討委員会（資料-7）で確認した部分拡幅部における調査工の結果により、東名ＪＣＴ地中拡幅（南行）施工範囲全体で追加の止水対策は基本的に必要ないものと判断した。

2．地中拡幅工事（南行）における工事管理体制

第３０回東京外環トンネル施工等検討委員会で確認した施工管理計画に基づき、地表面変位や地下水位を確認しながら施工を進めた。

また、受注者内部の施工状況のモニタリング体制を強化し、平時からの受発注者間の情報共有体制を構築するとともに、関係者への日々の作業状況の定時報告等の情報共有を確実に実施している。緊急時には同様に速やかに情報共有がなされる体制を構築している。

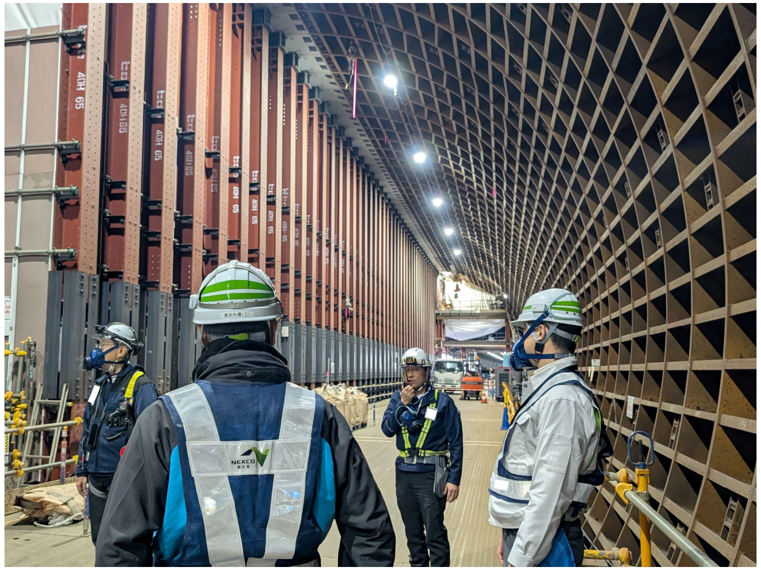
■施工モニタリング体制



■受発注者間合同安全点検などの状況

受注者の安全大会

受発注者間合同の安全点検



施工状況報告会議

3. 地域の安全・安心を高める取り組みの対応状況

第３０回東京外環トンネル施工等検討委員会における地域の安全・安心を高める取り組みとして以下を確認した。

2. 地域の安全・安心を高める取り組み

振動・騒音対策や地盤変状の確認、地域住民の方への情報提供、緊急時の運用について、地中拡幅工事に伴う地域の安全・安心を高める取り組みとして、陥没地域で実施した説明会や相談窓口等においていただいたご意見、沿線区市よりいただいた要請書等を参考に次のとおりとりまとめた。引き続き、沿線住民からの問い合わせ等に対し、適切に対応するとともに、不安を取り除くことに努めていく。

地域の安全・安心を高める取り組み

① 振動・騒音対策

○振動・騒音の緩和
- 低振動・低騒音の工法を採用。
- 振動・騒音の少ない施工機械を極力使用して振動・騒音を緩和。
- 建設機械の点検・注油及び部品交換。

○振動・騒音のモニタリング
- 簡易計測器を現地に設置し、振動・騒音の速報値を表示。
- 振動・騒音の測定を施工箇所直上付近で実施する。
- 測定結果をホームページや現場付近に設置する掲示板（※1）にて定期的に公表。

○一時滞在先の提供
- 振動・騒音（低周波含む）の発生の抑制を行っても振動・騒音を感じられる場合、一時的に滞在可能な場所を確保・提供。

②地表面変状の確認

○地表面変状の把握
- 交差する公道上において水準測量により地表面変位を確認し、最大地表面傾斜角と最大鉛直変位をホームページや現場付近に設置する掲示板（※1）にて定期的に公表。
  ※地表面変状は掘削前後の最大地表面傾斜角（1,000 分の 1rad 以下）により管理。

○施工区間における巡回監視
- 施工完了後概ね１カ月程度、24 時間体制で毎時１回の頻度で監視員が徒歩にて目視で巡回し、地表面等の異常の有無を確認。
- １カ月経過以降においても施工完了区間全線について、毎日１回の頻度で監視員が徒歩にて目視で巡回。
- 合成開口レーダー等を活用し、施工完了区間の地表面等の変位の傾向を継続して把握。
- 埋設物等の既設構造物について必要な計測等を定期的に実施。

○地下水位の把握
- 地中拡幅施工箇所付近に設置した観測井戸により浅層（地表面付近の帯水層）、深層（施工箇所付近の深度の地層）の地下水位を常時観測して地下水位の変動を把握。
- 浅層地下水位と深層地下水位の変動を比較し、地中拡幅工事による深層地下水位の変動が浅層地下水位に与える影響を把握する。
- 測定結果をホームページや現場付近に設置する掲示板に定期的に公表。

③地域住民の方への情報提供

○自治体と連携した路面下空洞調査の実施
- 施工前及び施工後の間に生じた空洞の有無を調査するため、公道において路面下空洞調査を実施。

○地中拡幅工事の施工状況、モニタリング情報の提供
- 工事のお知らせを工事の進捗にあわせ施工前、施工後に配布。
- 現場付近に設置する掲示板（※１）やホームページにて、地中拡幅工事の進捗状況やモニタリング情報をお知らせ。
- 施工データについて、東京外環トンネル施工等検討委員会において確認後、適切に公表していく。
- 地中拡幅施工位置を周辺住民の方へお伝えする目印（※2）を現地に表示。

○「トンネル工事の安全・安心確保の取組み」の更新
- 「トンネル工事の安全・安心確保の取組み」について、東名 JCT で実施する地中拡幅工事に係る内容を追加・更新し、引き続き、地域の皆様の安全・安心確保に向け、事業者として対策に取組む。

※1・2：設置箇所・手法は自治体と調整

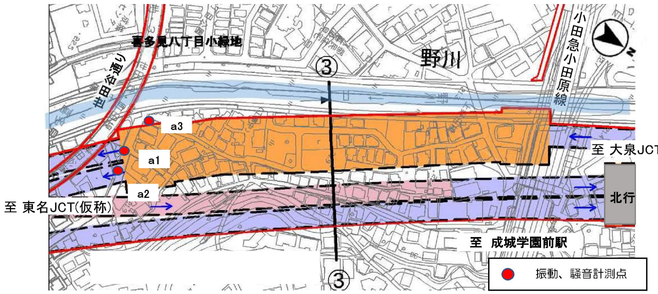
３．１　振動・騒音のモニタリングの強化

概ね1カ月間隔で施工箇所直上付近の公共用地において振動・騒音測定を実施することとしており、下図に示す箇所で測定を行った。結果については掲示板やHPで公表している。また、施工箇所直上付近の位置で簡易計測器を用いた振動・騒音測定を実施し、電光掲示板で測定値を表示した。

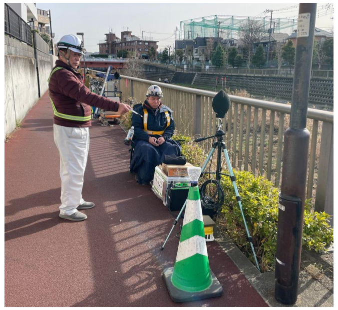
令和７年１１月１日から令和８年２月２８日において、地中拡幅施工に関する振動・騒音のお問合せは0件であった。

【振動･騒音測定】

測定内容	振動レベル（鉛直Z方向）、騒音レベル、低周波レベル
測定頻度	１回／月程度
測定時間	昼間施工中、夜間施工中、昼間施工休止中、夜間施工休止中
測定位置	施工箇所直上付近と調査範囲端部付近の公共用地3測点 低周波は直上付近のみ１測点
公表値	（速報値） 振動レベルL10（施工箇所直上付近の1点） 騒音レベルLA5（施工箇所直上付近の1点） （確定値） 振動レベルL10 騒音レベルLA5 低周波レベルL50、LG5 ※特異値（例：大型車両通過に伴う振動、緊急車両サイレンなど）を除外した数値
掲示方法	（速報値） 現地付近の掲示板等に掲示 （確定値） ホームページと現地付近の掲示板等に掲示



測定位置（測定日：令和７年１１月２６日（水））

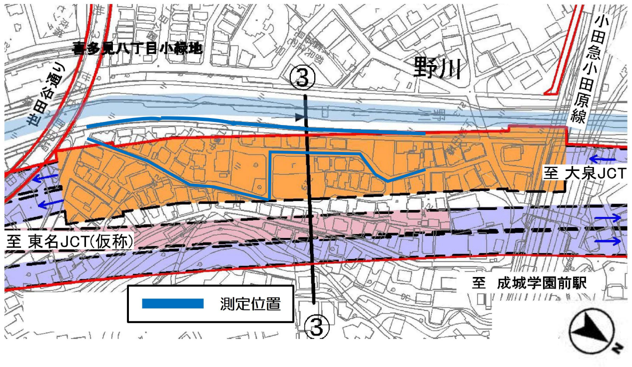


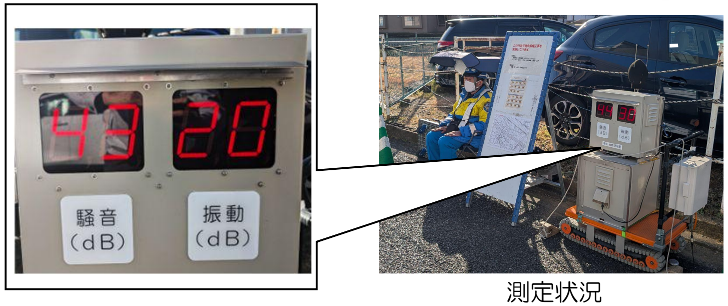
測定状況

【簡易測定】

測定内容	振動レベル（鉛直Z方向）、騒音レベル
測定頻度	地中拡幅施工日
測定時間	２４時間
測定位置	施工箇所直上付近の公共用地
公表値	瞬間値　振動レベル 瞬間値　騒音レベル
掲示方法	電光掲示板（測定位置）で瞬間値を自動掲示 施工位置に合わせて設置位置を移動

測定位置



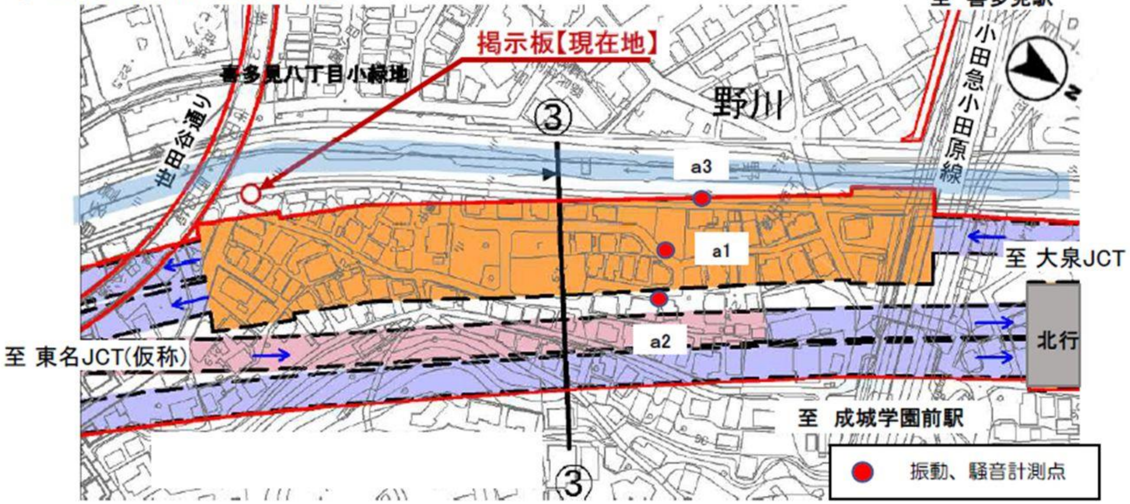


測定状況

令和７年９月２５日（火）　10:00～翌４:00振動・騒音測定結果

振動　　　：標準拡幅工事の休止中と施工中で明確な差異は確認されず、規制基準値以内であった。
騒音　　　：ａ３地点で標準拡幅工事の休止中と施工中で上昇傾向が確認されたが、規制基準値以内であった。
低周波音　：標準拡幅工事の休止中と施工中で明確な差異は確認されなかった。

【 9月25日(木) 計測箇所】



【 9月25日(木) 10:00～翌4:00 振動･騒音計測結果(確定値)】

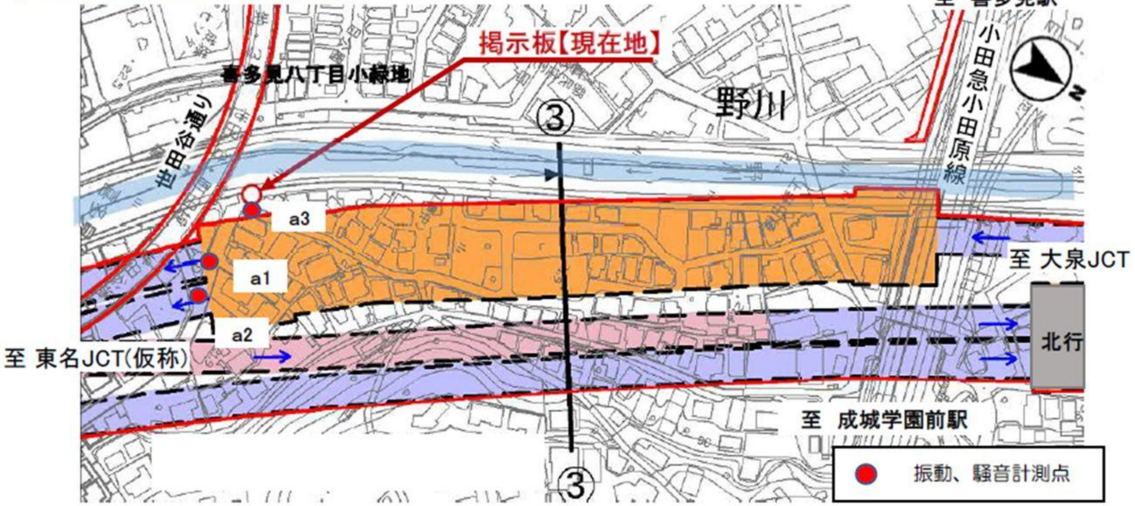
	a1			a2			a3		
	休止中 最大	施工中 最大(昼)	施工中 最大(夜)	休止中 最大	施工中 最大(昼)	施工中 最大(夜)	休止中 最大	施工中 最大(昼)	施工中 最大(夜)
振動レベル L_{10}(dB)	31	34	31	31	31	29	37	35	34
騒音レベル L_{A5}(dB)	62	64	53	57	62	57	64	74	56
低周波レベル L_{50}(dB)	79	81	69						
低周波レベル L_{G5}(dB)	80	77	77						

＊振動レベル、騒音レベル、低周波レベルの測定は施工箇所直上付近で実施しています。
　計測点は施工箇所直上および影響範囲端部を基本とし、事業用地や公道などで実施しています。
＊上表は、特異値(例:大型車両通過に伴う振動、緊急車両サイレンなど)を除外した数値を示しています。
＊昼･･･19時まで　夜･･･19時以降
【振動レベルL_{10}】 振動レベルをある時間測定したとき、全測定値の大きい方から10%目の値をL_{10}と表します。
【騒音レベルL_{A5}】 騒音レベルをある時間測定したとき、全測定値の大きい方から5%目の値をL_{A5}と表します。
【低周波レベルL_{50}】 1～80Hzの周波数範囲内をある時間測定したとき、全測定値の中央値をL_{50}と表します。
【低周波レベルL_{G5}】 1～20Hzの周波数範囲内をある時間測定したとき、全測定値の大きい方から5%目の値をL_{G5}と表します。

令和７年１０月２８日（火）　10:00～翌4:00 振動・騒音測定結果

振動　　　　：標準拡幅工事の休止中と施工中で明確な差異は確認されず、規制基準値以内であった。
騒音　　　　：標準拡幅工事の休止中と施工中で明確な差異は確認されず、規制基準値以内であった。
低周波音　　：標準拡幅工事の休止中と施工中で明確な差異は確認されなかった。

【 10月28日(火) 計測箇所】



【 10月28日(火) 10:00～翌4:00 振動･騒音計測結果(確定値)】

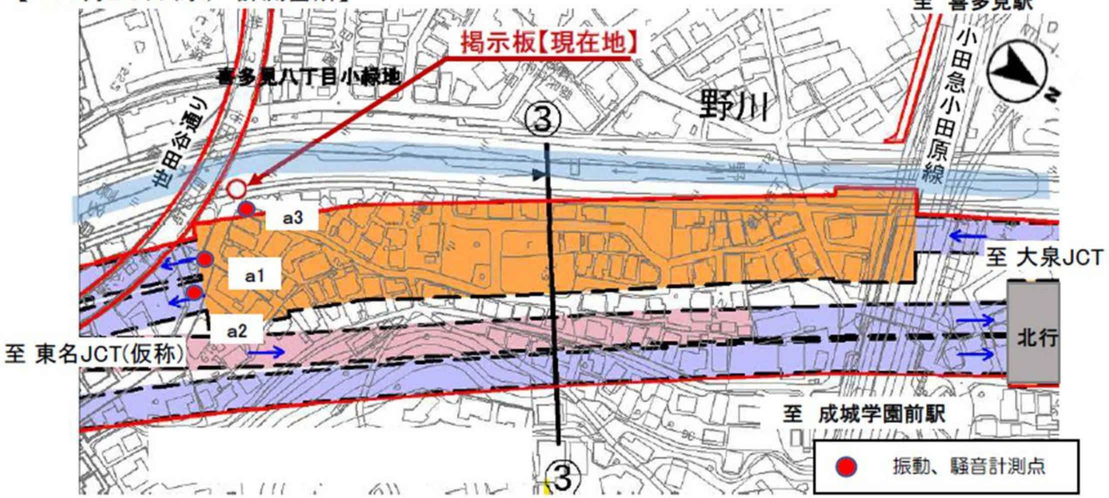
	a1			a2			a3		
	休止中 最大	施工中 最大(昼)	施工中 最大(夜)	休止中 最大	施工中 最大(昼)	施工中 最大(夜)	休止中 最大	施工中 最大(昼)	施工中 最大(夜)
振動レベル L_{10}(dB)	39	37	28	42	39	32	57	57	42
騒音レベル L_{A5}(dB)	69	65	66	62	59	53	73	64	59
低周波レベル L_{50}(dB)	83	86	86						
低周波レベル L_{G5}(dB)	82	83	81						

＊振動レベル、騒音レベル、低周波レベルの測定は施工箇所直上付近で実施しています。
計測点は施工箇所直上および影響範囲端部を基本とし、事業用地や公道などで実施しています。
＊上表は、特異値(例:大型車両通過に伴う振動、緊急車両サイレンなど)を除外した数値を示しています。
＊昼･･･19時まで　夜･･･19時以降
【振動レベルL_{10}】 振動レベルをある時間測定したとき、全測定値の大きい方から10%目の値をL_{10}と表します。
【騒音レベルL_{A5}】 騒音レベルをある時間測定したとき、全測定値の大きい方から5%目の値をL_{A5}と表します。
【低周波レベルL_{50}】 1～80Hzの周波数範囲内をある時間測定したとき、全測定値の中央値をL_{50}と表します。
【低周波レベルL_{G5}】 1～20Hzの周波数範囲内をある時間測定したとき、全測定値の大きい方から5%目の値をL_{G5}と表します。

令和７年１１月２６日（水）　10:00～翌4:00 振動・騒音測定結果

振動　　　　：標準拡幅工事の休止中と施工中で明確な差異は確認されず、規制基準値以内であった。
騒音　　　　：標準拡幅工事の休止中と施工中で明確な差異は確認されず、規制基準値以内であった。
低周波音　　：標準拡幅工事の休止中と施工中で明確な差異は確認されなかった。

【 11月26日(水) 計測箇所】



【 11月26日(水) 10:00～翌4:00 振動・騒音計測結果(確定値)】

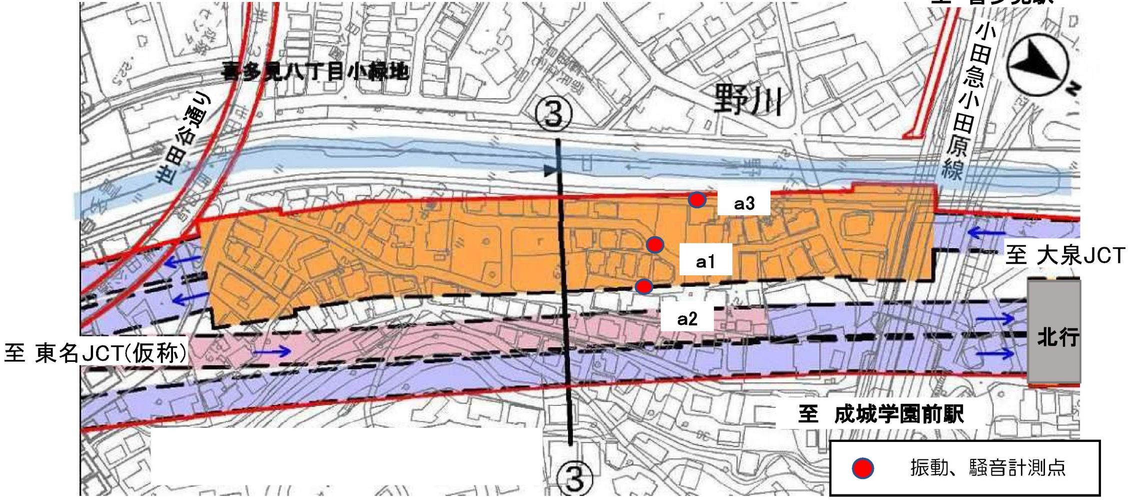
	a1			a2			a3		
	休止中 最大	施工中 最大(昼)	施工中 最大(夜)	休止中 最大	施工中 最大(昼)	施工中 最大(夜)	休止中 最大	施工中 最大(昼)	施工中 最大(夜)
振動レベル L_{10}(dB)	31	35	27	36	42	33	35	39	34
騒音レベル L_{A5}(dB)	65	64	66	67	66	64	62	65	60
低周波レベル L_{50}(dB)	90	89	70						
低周波レベル L_{G5}(dB)	88	84	77						

＊振動レベル、騒音レベル、低周波レベルの測定は施工箇所直上付近で実施しています。
　計測点は施工箇所直上および影響範囲端部を基本とし、事業用地や公道などで実施しています。
＊上表は、特異値(例:大型車両通過に伴う振動、緊急車両サイレンなど)を除外した数値を示しています。
＊昼・・・19時まで　夜・・・19時以降
【振動レベルL_{10}】 振動レベルをある時間測定したとき、全測定値の大きい方から10%目の値をL_{10}と表します。
【騒音レベルL_{A5}】 騒音レベルをある時間測定したとき、全測定値の大きい方から5%目の値をL_{A5}と表します。
【低周波レベルL_{50}】 1～80Hzの周波数範囲内をある時間測定したとき、全測定値の中央値をL_{50}と表します。
【低周波レベルL_{G5}】 1～20Hzの周波数範囲内をある時間測定したとき、全測定値の大きい方から5%目の値をL_{G5}と表します。

令和７年１２月９日（火）　10:00～翌4:00 振動・騒音測定結果

振動　　　：標準拡幅工事の休止中と施工中で明確な差異は確認されず、規制基準値以内であった。
騒音　　　：標準拡幅工事の休止中と施工中で明確な差異は確認されず、規制基準値以内であった。
低周波音　：標準拡幅工事の休止中と施工中で明確な差異は確認されなかった。

【　12月　9日（火）　計測箇所】



【　12月　9日（火）　10：00～翌4：00　振動・騒音計測結果（確定値）】

	a1			a2			a3		
	休止中 最大	施工中 最大（昼）	施工中 最大（夜）	休止中 最大	施工中 最大（昼）	施工中 最大（夜）	休止中 最大	施工中 最大（昼）	施工中 最大（夜）
振動レベル L_{10}(dB)	36	36	34	34	34	31	35	38	33
騒音レベル L_{A5}(dB)	55	59	54	63	65	53	56	61	55
低周波レベル L_{50}(dB)	78	78	66						
低周波レベル L_{G5}(dB)	75	77	76						

＊振動レベル、騒音レベル、低周波レベルの測定は施工箇所直上付近で実施しています。
　計測点は施工箇所直上および影響範囲端部を基本とし、事業用地や公道などで実施しています。
＊上表は、特異値（例：大型車両通過に伴う振動、緊急車両サイレンなど）を除外した数値を示しています。
＊昼・・・19時まで　夜・・・19時以降
【振動レベルL_{10}】 振動レベルをある時間測定したとき、全測定値の大きい方から10%目の値をL_{10}と表します。
【騒音レベルL_{A5}】 騒音レベルをある時間測定したとき、全測定値の大きい方から5%目の値をL_{A5}と表します。
【低周波レベルL_{50}】 1～80Hzの周波数範囲内をある時間測定したとき、全測定値の中央値をL_{50}と表します。
【低周波レベルL_{G5}】 1～20Hzの周波数範囲内をある時間測定したとき、全測定値の大きい方から5%目の値をL_{G5}と表します。

３．２　地表面変状の確認

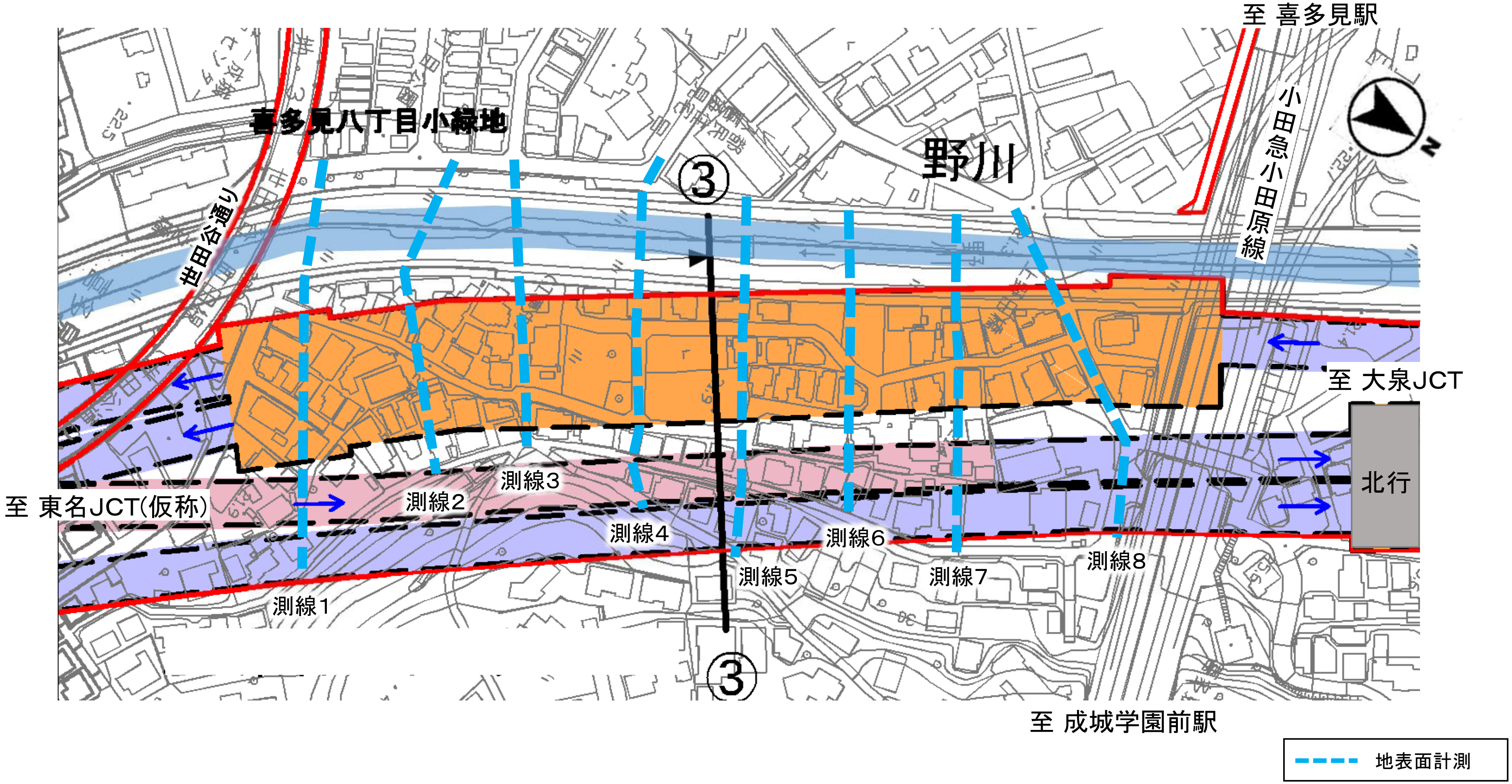
①地表面計測

交差する公道上において水準測量により地表面変位を地中拡幅施工中は１回／日、施工完了後は１回／月の頻度で変位が収束するまで計測を実施する計画である。

測量結果については、地表面最大傾斜角、鉛直変位をホームページや現場付近に設置している掲示板にて１回／週の頻度で定期的に公表している。

（野川の遊歩道部における計測値は、野川河川護岸の構造が原因と考えられる特異値のため除いている。）

今回の作業期間における作業前後の地表面最大傾斜角は１０００分の１ｒａｄ以下であることを確認した。



【地表面計測結果（野川遊歩道の計測値は野川河川護岸の構造が原因と考えられる特異値として除外）】

測線	基準値	最大傾斜角（rad）																
	計測日	11月7日	11月14日	11月21日	11月28日	12月5日	12月12日	12月19日	12月26日	1月6日	1月9日	1月16日	1月23日	1月30日	2月6日	2月13日	2月20日	2月27日
1	令和7年 1月27日	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000
2	令和7年 1月27日	0.1/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.1/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.0/1000
3	令和7年 1月27日	0.4/1000	0.3/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.2/1000	0.3/1000	0.3/1000	0.1/1000	0.2/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.2/1000	0.3/1000
4	令和7年 1月27日	0.1/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.2/1000	0.2/1000	0.2/1000	0.2/1000	0.2/1000	0.3/1000	0.3/1000	0.3/1000
5	令和7年 1月27日	0.1/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.0/1000	0.1/1000	0.2/1000	0.1/1000	0.2/1000	0.2/1000	0.1/1000
6	令和7年 1月27日	0.1/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.1/1000	0.1/1000
7	令和7年 1月27日	0.0/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.1/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000
8	令和7年 1月27日	0.1/1000	0.3/1000	0.2/1000	0.2/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.2/1000	0.2/1000	0.2/1000	0.2/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.2/1000	0.2/1000	0.1/1000

測線	基準値	最大鉛直変位（mm）																
	計測日	11月7日	11月14日	11月21日	11月28日	12月5日	12月12日	12月19日	12月26日	1月6日	1月9日	1月16日	1月23日	1月30日	2月6日	2月13日	2月20日	2月27日
1	令和7年 1月27日	＋3	＋5	＋2	＋1	＋1	＋2	＋2	＋2	＋2	＋2	＋3	＋2	＋2	＋2	＋2	−3	±0
2	令和7年 1月27日	＋4	＋5	＋4	＋2	＋2	＋3	＋2	＋1	＋2	＋2	＋2	＋2	＋2	＋2	＋2	−4	−2
3	令和7年 1月27日	−3	＋3	＋1	−1	＋1	＋1	＋1	＋2	−2	＋2	＋1	−2	−1	−2	−1	−5	−5
4	令和7年 1月27日	−1	−1	−1	−1	±0	±0	−1	−1	−2	−2	−2	−2	−2	−3	−4	−4	−6
5	令和7年 1月27日	＋2	＋2	＋1	＋1	±0	＋1	＋1	＋1	−1	＋2	＋1	＋1	−2	＋3	＋3	−4	−4
6	令和7年 1月27日	＋5	＋6	＋5	＋3	＋3	＋3	＋3	＋3	＋3	＋3	＋3	＋1	＋2	＋2	＋2	＋2	−1
7	令和7年 1月27日	＋5	＋6	＋5	＋2	＋1	＋2	＋1	＋3	＋3	＋3	＋2	＋2	±0	＋2	＋2	＋1	＋1
8	令和7年 1月27日	−5	＋6	−5	＋4	−3	−4	−4	−6	−6	−7	−7	−4	−3	−4	−6	−8	＋5

②MMS（３D点群調査）、GNSS、合成開口レーダー
　地中拡幅工事を実施する前に MMS（３D点群調査）を実施済みであり、GNSSや合成開口レーダーを活用して地表面変位の傾向の把握を継続して実施した。

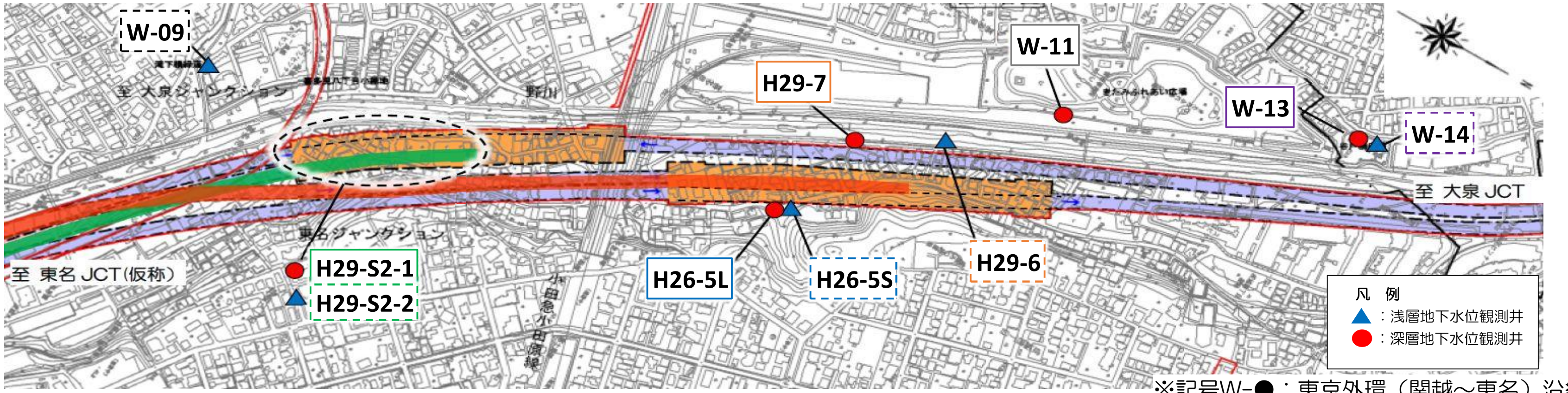
③巡回監視の強化
　地中拡幅施工時は２４時間体制で施工箇所周辺を徒歩等により巡視員が巡回を実施している。
　これまで施工箇所周辺において、トンネル工事に起因する地表面変状等周辺の生活環境に影響を与える事象は確認されていない。

④地中拡幅（北行、南行）全域における地下水について

地中拡幅施工箇所付近に設置した観測井戸により浅層部、深層部における地下水の圧力水頭を常時観測し、その変動を把握した。

- H29-S2-1（深層地下水）においては、南行における湧水量調査での排水の影響と考えられる圧力水頭の低下が確認されたが、浅層地下水への影響は確認されていない。
- 現在パイプルーフ工の発進基地掘削を実施中であるが、H29-S2-1における圧力水頭は定常状態であると考えられる。
- 全体的な浅層地下水位及び深層地下水圧力水頭の低下は無降雨による影響と考えられる。また、降雨により浅層地下水位及び深層地下水圧力水頭に変動がみられる。

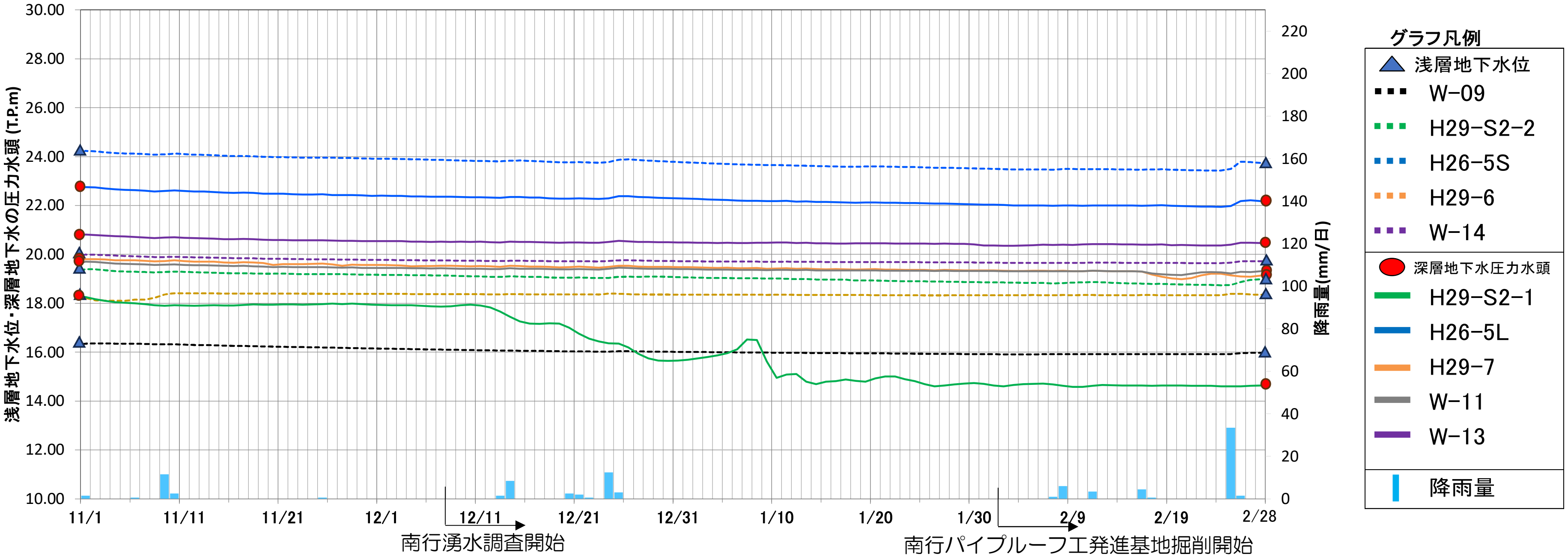
  ※H29-7、W-11の圧力水頭の低下は北行の湧水量調査の影響によるものと考えられる（資料-６参照）。



※記号W-●：東京外環（関越～東名）沿線に設置の観測井戸

※記号H-●：地中拡幅施工箇所付近に設置した観測井戸

：民地のため概ねの位置で記載　　東名ＪＣＴ部における地下水位観測井　位置図



東名ＪＣＴ部における地下水位計測結果

３．３　地域住民の方への情報提供

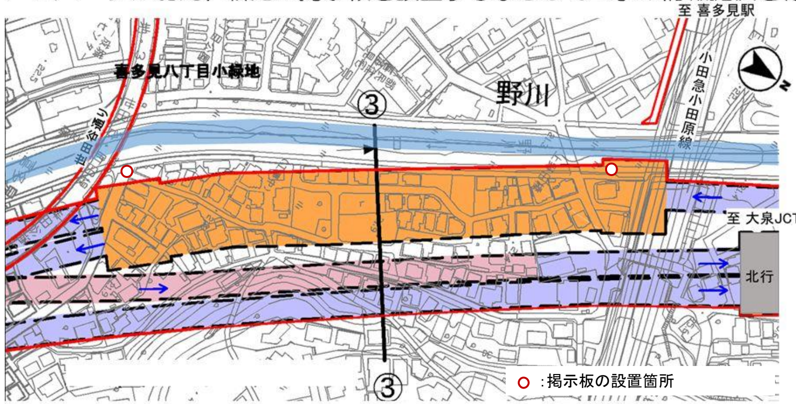
３．３．１　地中拡幅工事の進捗状況、モニタリング情報の提供

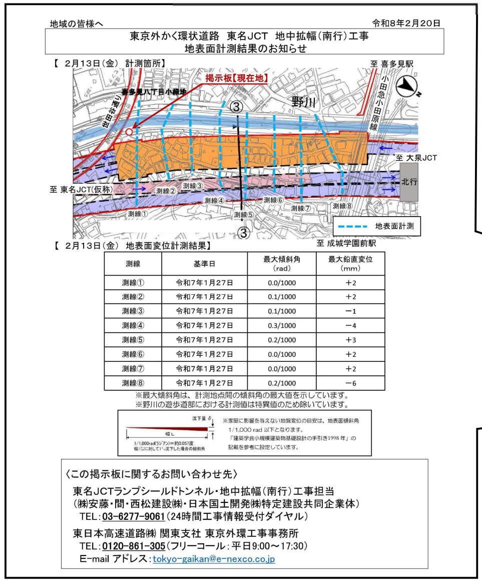
地中拡幅工事において、地域住民の方への情報提供として、地中拡幅工事の進捗状況及びモニタリング情報の提供を行っている。

具体的には、①現場付近の掲示板やホームページを用いた地中拡幅工事の進捗状況や計測結果のお知らせ、②施工データの適切な公表、③地中拡幅施工箇所直上付近での振動・騒音の値の公表を実施している。

① 現場付近の掲示板やホームページを用いた地中拡幅工事の進捗状況や計測結果のお知らせ

東京外環事業のホームページに加え、新たに掲示板を設置するなどして工事の情報提供を行っている。





地域の皆様へ　令和8年2月20日

東京外かく環状道路　東名JCT　地中拡幅（南行）工事
地表面計測結果のお知らせ

【　2月13日（金）　計測箇所】

至 喜多見駅　掲示板【現在地】　喜多見八丁目小緑地　世田谷通り　野川　小田急小田原線　③　至 大泉JCT　北行　至 東名JCT(仮称)　測線①　測線②　測線③　測線④　測線⑤　測線⑥　測線⑦　測線⑧　地表面計測　至 成城学園前駅

【　2月13日（金）　地表面変位計測結果】

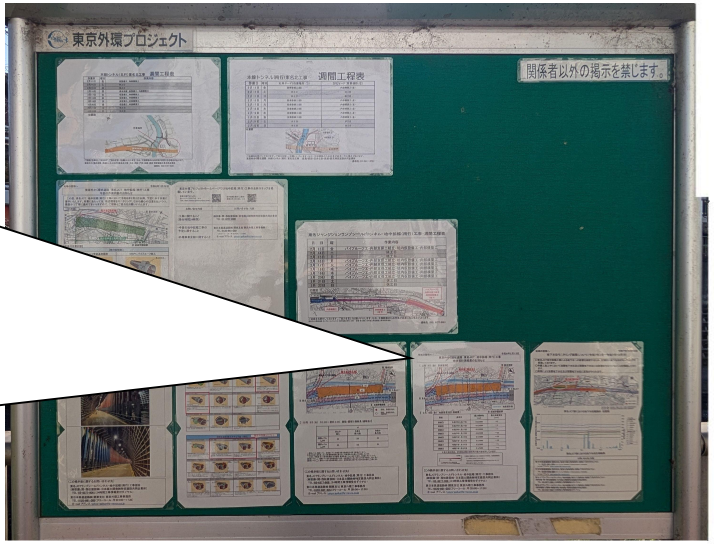
測線	基準日	最大傾斜角（rad）	最大鉛直変位（mm）
測線①	令和7年1月27日	0.0/1000	＋2
測線②	令和7年1月27日	0.1/1000	＋2
測線③	令和7年1月27日	0.1/1000	－1
測線④	令和7年1月27日	0.3/1000	－4
測線⑤	令和7年1月27日	0.2/1000	＋3
測線⑥	令和7年1月27日	0.0/1000	＋2
測線⑦	令和7年1月27日	0.0/1000	＋2
測線⑧	令和7年1月27日	0.2/1000	－6

※最大傾斜角は、計測地点間の傾斜角の最大値を示しています。
※野川の遊歩道部における計測値は特異値のため除いています。

沈下量 δ　幅 L　1/1,000rad(ラジアン)＝約0.057度　幅1mに対して1mm沈下した場合の傾斜角

※家屋に影響を与えない地盤変位の目安は、地表面傾斜角 1/1,000 rad 以下となります。「建築学会小規模建築物基礎設計の手引き1998 年」の記載を参考に設定しています。

〈この掲示板に関するお問い合わせ先〉
東名JCTランプシールドトンネル・地中拡幅（南行）工事担当
（㈱安藤・間・西松建設㈱・日本国土開発㈱特定建設共同企業体）
TEL：03-6277-9061（24時間工事情報受付ダイヤル）
東日本高速道路㈱ 関東支社 東京外環工事事務所
TEL：0120-861-305（フリーコール：平日9:00～17:30）
E-mail アドレス：tokyo-gaikan@e-nexco.co.jp



【掲示板への掲示例】
地表面変位モニタリング結果

【ホームページ】
地中拡幅工事の進捗状況と振動・騒音等のモニタリング結果の公表

②施工データの適切な公表
　東京外環トンネル施工等検討委員会において確認した後、適切に公表していく。

③地中拡幅施工箇所直上付近での振動・騒音の値の公表
　地中拡幅施工箇所直上付近での振動・騒音モニタリングについて、計測場所に電光掲示板を配置し振動・騒音のリアルタイムな値を表示している。

【地中拡幅施工箇所直上付近での振動・騒音の値（簡易計測値）の表示】

【振動・騒音リアルタイム表示】